

# 平成29年度実績に係る部局評価書

部局名:蛋白質研究所

|                                 |                                    |                                 |
|---------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|
| 【評価区分1】<br>部局年度計画に対する<br>達成状況評価 | 【評価区分2】<br>「全学的に重視する指標」<br>に係る実績評価 | 【総合評価】<br>評価区分1及び<br>評価区分2に係る評定 |
| <b>S</b>                        | <b>S</b>                           | <b>S</b>                        |

## 【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

| 項目       | 評定 | コメント(評定に至った主な理由)   |
|----------|----|--|
| 【教育】     | S  | 平成29年度計画の達成状況が優れている。   |
|          |    | 高度副プログラム「蛋白質先端研究プログラム」を新たに開講し、その授業の一部を英語化するとともに、海外の著名な研究者が短期で滞在する枠組みを導入し、4名の特任教授(常勤)を雇用したことが評価できる。     |
| 【研究】     | S  | 平成29年度計画の達成状況が優れている。   |
|          |    | 科学研究費助成事業について新規学問領域や若手研究者層での新規採択が増加したこと、新しい構造生命科学のための研究体制を充実させたこと、蛋白質構造データベースのデータ登録数が29%増となったことが評価できる。 |
| 【社会貢献】   | A  | 平成29年度計画の達成状況が良好である。   |
|          |    |  |
| 【グローバル化】 | A  | 平成29年度計画の達成状況が良好である。   |
|          |    |  |

## 【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

### 【評価コメント】

教員人事によって研究体制を整えるなど、論文数の増加に努めることで実績を向上させたことが評価できる。また、競争的資金(科研費以外)の採択金額について、国立研究開発法人日本医療研究開発機構が進めるプロジェクトの実施主体となることで、実績を大きく向上させたことが高く評価できる。